

学位被授与者氏名	島本 雄貴（しまもと ゆうき）
論文題目	英彦山修験の近現代史 ―維新と戦後の変革期をめぐって―
論文審査結果の要旨	<p>英彦山の神仏分離に至る動向を扱った第一章・第二章に関しては彦山修験と長州藩の双方の倒幕運動に関与した長三州の活動に注目するなど独自の視点がうかがえるが、折角蒐集した古文書類を読解利用する余裕がなく、全体としては先行研究をまとめたという域を出ていない。</p> <p>第三章は英彦山修験の衰退にともない戦前・戦後に観光地・保養地として地域復興がなされた事情について、先行研究がほとんど無いなか新聞記事等を丹念に拾い上げて論じている点は新味があり評価されてよい。ただし幾度かの現地調査を実施しながら、その成果が十分に反映されているとはいえない。さらなるデータの収集と分析があればより良い論文になったであろうと惜しまれる。</p> <p>論文全体を通して見た場合、第一章・第二章の神仏分離に関する研究と第三章の近代の観光化に関する研究との関連性が乏しく、統一した論点が見出し難い。近代の英彦山神社（英彦山神宮）の氏子・崇敬者組織や神社経営のあり方や、修験道復興の動向を詳しく調査するとか、近世の英彦山参詣などの様相を究明するなどして、両者のギャップを埋める努力が必要だったのではないか。</p> <p>平成24年8月20日に、北九州市立大学北方キャンパス本館 E-303 教室において、審査委員全員出席のもとで最終試験を実施して学力を確認し、論文の説明を受け、質疑応答ののちに、全員一致で当該論文が修士(比較文化)として十分な内容であると判定した。</p>